

～岩手をグローバルな舞台へー世界農業遺産認定への取り組み～

平成31年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名： 東稲山麓地域の農業や水害に関連した知識や伝統、文化等に係る調査研究

研究代表者： 高等教育推進センター 教授 劉文静

課題提案者： 東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会

研究メンバー： 総合政策学部 准教授 鈴木正貴

技術キーワード： 世界農業遺産、地域活性化、農林業システム、水害との共生、環境保全

▼研究の概要（背景・目標）

岩手県東稲山麓地域では、過疎化や高齢化が進行し、集落機能や農地・山林の保管理機能の低下が懸念されるようになった。そこで、北上川流域の水田と中山間地域の棚田などを組み合わせた独自の複合的な農林業システムを地域活性化に繋がりたいと考え、2019年6月に「世界農業遺産」の認定申請を行った。しかしながら、農林業システムと地域との関係が不明瞭と評価委員より指摘を受けて不通過となった。そのため本研究では、農林業システムと地域との関係の明確化を目的とする。

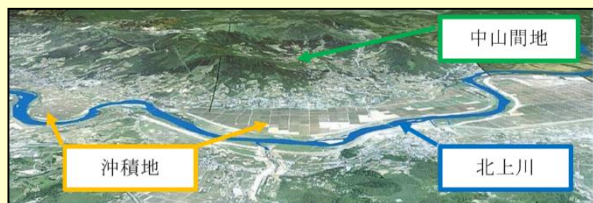


図1. 東稲山麓地域／航空図

▼研究の内容（方法・経過）

「見える化」を意識した作業を工夫・模索。

1. 資料・文献調査・統計資料の集計作業
2. 県、市、集落（土地改良区、農家の組織など）や農家、住民への現地訪問による聞き取り調査

▼研究の成果（結論・考察）

1～3の事象を明らかにすることができた。本研究の成果は「世界農業遺産」認定の土台になっただけでなく、歴史研究史としての価値も高い。

1. 「水害」と共生すべく闘ってきた知恵と対策によって農林業システムが形成された
2. 農林業システムを持続・発展させるために社会組織による取組が成されている(遊水地の形成)
3. 観光の目玉になり得る資源が存在している

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

東稲山麓地域の「農林業システム」を明確化できた。今後は「持続可能な農林業システム」を提案するために、「農林業システム」に纏わる地域構造の変動（いつ、なぜ、どのように形成されたのか）の解明を試みる。

関連市町の地域組織・団体および個別農家・地域住民の方々にヒアリング調査および貴重な資料提供のご協力いただきましたこと、心より感謝を申し上げます。

表1. 沖積地農地所有農家の山麓部農地との併有率

	沖積地所有農家戸数(戸)	併有戸数(戸)	併有率(%)
一関市舞川地区	271	213	78.6
奥州市生母地区	690	423	61.3
平泉町長島地区	448	391	87.3
地区計	1,409	1,027	72.8

※ 沖積地は商品目的の作物を作付けており、かつては桑・麻などであった。
遊水地が整備された現在は米や小麦などに変遷している。
※ 中山間地は自然災害に備え、食料確保のため主食の水稲を作付け。



図2. 土地利用における知恵と知識
(左から棚田、石積棚田、古い水路)

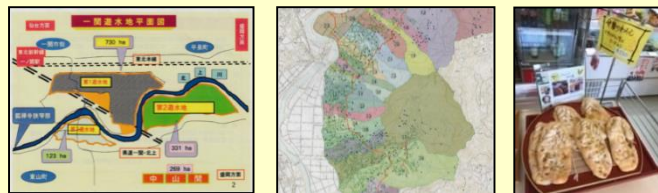


図3. 社会組織による取組み
(左から遊水地事業、用水配分システム、商品開発)



図4. 観光資源
(左から絶滅危惧種のキキョウ、蓬田神楽、お大師様、八斗料理)